

一般論としてまだまだ誤解がある部分なのでネット情報を借りて説明します
(★は私のコメントです)。蹄の治療もこのようなことを踏まえて行っています。

阿部

通常の傷の治り方について

キッセイ薬品工業株式会社 HP より

傷の種類

通常の皮膚の損傷を伴う傷には、切り傷、裂き傷、擦り傷、刺し傷などがあります。まず出血を止めながら、傷の様子をみてみます。浅く、小さな傷で、しかも傷口がきれいな場合には、医療機関で診察を受ける必要はありませんが、大きくて深い傷で出血し、傷口が汚れていたり、異物が混入している場合は医療機関での治療が必要です。

切り傷

鋭利なもので切れた傷で、出血量が多くなりがちです。まず圧迫止血をしてから、傷をよく見てみます。創面がきれいで、浅く小さなものであれば、傷やその周囲の皮膚を水できれいに洗って、傷の面をしっかりと寄せ、傷に垂直な方向に清潔な絆創膏（ばんそうこう）でとめておけば、数日で傷はくっつきます。深い場合は、神経や血管を切断している可能性がありますので、必ず診察を受けて下さい。

擦り傷（擦過傷：さっかしょう）

皮膚の表面がけずりとられ、神経の末端（まったん）が露出するので強い痛みがあります。透明な組織液がにじみ出てくるのが特徴です。砂やアスファルトなどで傷が汚れていれば、治りにくく、治っても砂などが残って入れ墨のようになってしまうこともあります。ブラッシング（清潔な歯ブラシなどで傷をこすって、汚れを完全に洗い落とすこと）をする必要がありますので、医師の治療を受けましょう。

裂き傷（裂傷：れっしょう）

傷がギザギザしているので、圧迫止血し、医師の治療を受ける必要があります。

刺し傷

傷口は小さくとも、深くまで達して内臓などを傷つけていることも考えられます。慌てて刺さったものを抜くと大出血につながる危険もあるので、その場で救急車を呼びましょう。

熱傷（やけど）

熱傷は火や熱湯に接したときにできます。患部は流水で冷やします。見た目は大したこととはなくとも皮膚の中が傷害されていることがあります。念のため、医師の診断を受けてください。

凍傷

凍傷は、寒冷にさらされた末梢組織の障害ですが、組織そのものが凍結して細胞が破壊される場合と、寒冷によって末梢小動脈が収縮し、血管内の血液が濃縮され血栓を起こすなどして起こる末梢の循環障害の場合があります。医師の診断が必要です。

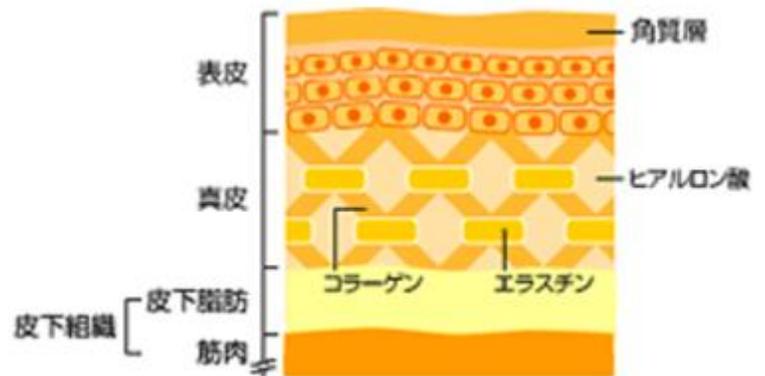
咬み傷（犬など）

動物に咬まれた傷のことです。見た目は小さな傷でも意外と深く、動物の口の中にはたくさんの細菌が常在しているので、傷が深くまで汚染されてしまいます。このような傷の場合は医療機関で診断を受ける必要があります。

傷の治り方（治癒過程）

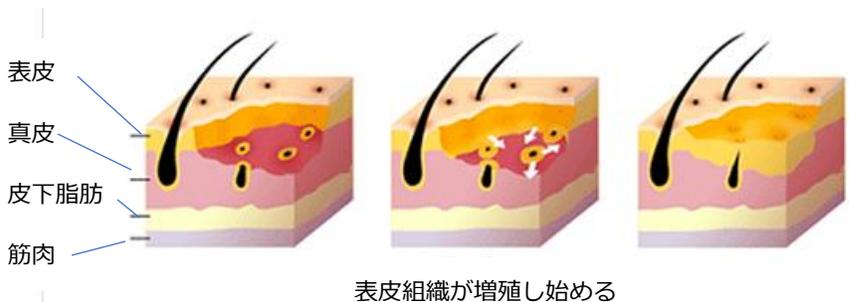
1.皮膚の構造

通常、皮膚と呼ばれているのは、表面から「表皮」「真皮」「皮下組織」の3層から構成されている組織です。



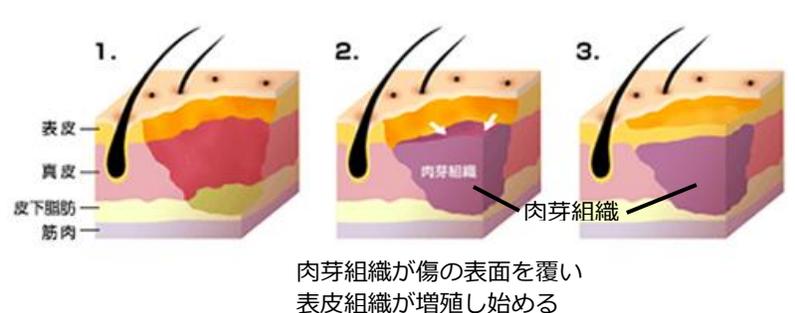
2.浅い傷の治り方

表皮が欠損した程度の浅い傷は、表皮の細胞が傷の底面から移動してきて増殖し、急速に傷が治ります。



3.深い傷の治り方

1. 深い傷とは、多くの場合、真皮が欠損しています。



2. このとき、線維芽細胞がコラーゲンを産生し真皮組織を補充し、また肉芽組織が出現して傷の表面を覆います。

3. そして、肉芽組織の周囲から表皮細胞が移動してきて増殖した後、肉芽組織が縮小して傷が治ります。

★飛び出るような肉芽組織を除去（切除）しても新しい傷を作るだけです。そのような場合は、原因（刺激物）を除去しなければなりません。

通常の治癒を阻むもの

目立つ傷あとにならないためには、傷の治癒を遅らせないことが大切です。

傷の治癒を阻んでいる原因には次のようなものがありますので気をつけましょう。

外傷の場合

異物・死んでしまった組織（壊死組織）がある

傷表面に異物（土や砂などの汚れ、縫合糸、ガーゼなど）や死んでしまった組織（かさぶたや血が巡っていない組織など）があると傷の治癒の邪魔になります。

★ですから、傷を良く洗うことが大切です。また、明らかな壊死組織は除去した方がきれいに治ります。

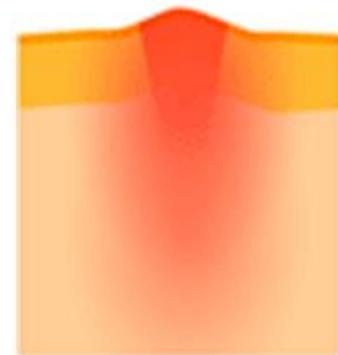


異物の混在

傷の表面の感染

傷表面の感染は異物や壊死組織の存在によって起こり、炎症を起こして傷の治癒を遅らせます。

★腫れて膨らんでいる場合、中に感染が起こっています。膿が溜まっているのか、炎症で組織が腫れているのかを診断する必要があります。組織の腫れならば切開ではなく、全身の抗生剤投与が有効になります。



傷口の化膿

傷の表面の乾燥

傷の表面が乾燥すると、表皮細胞や真皮成分がその上を移動したり増殖できなくなってしまう。かさぶたができるとう傷が治りやすいと考えている人も多いかと思いますが、これは間違いです。傷の表面が乾燥して固まってできるかさぶたは、かえって傷の治癒を邪魔します。

★この情報は昭和の時代にはありませんでした。ヨーチンやアカチンが「傷を乾かす＝早く治す」との理由（迷信）でもてはやされました。